

予約時間の5分前。「こんにちは。お願いします」の声に振り返れば、緊張した面持ちのDさんがそこにいた。早速、相談室に案内し「今日は久しぶりの雨で、少し肌寒いですね」と声をかけた。でもDさんは「はあ」と気のない返事。今はそんなことを話す気持ちの余裕もない感じ。ちょっと心配…。

「いらっしゃいます。Dさんは声を絞りますように訴えた。「同じ課の先輩とそりが合わなくて」とポツリポツリ話し始めた。

結婚・出産を機に前の会社を退職し、5年前にやっと再就職できた今の会社。入社当時は、小さい子どもがいることで迷惑がかからないよう、早く仕事を覚えなければ、と毎日が真剣勝負だった。

「でも、焦っている私に周りほども良くしてくれませんか」とDさん。「特にその先輩は、私に一つずつ丁寧に仕事を教えてくれたし、ミスをした時も嫌な顔一つせず対応してくれました。今の私があるのは先輩のおかげだと思っております」。これからのいきまを聞か

「先輩のサポート、本当にありがたいですねえ」と返すと、Dさんは深くうなずいた。

しかし、昨年あたりから様子がおかしいらしい。先輩がよそよそしくなり、態度は一変。教えを請うても「自分で考えたら」と冷たく突き放され、大切な取引先からの連絡を伝えてくれなかったり、わざと聞こえるように嫌みを言われたり…。

その影響で周りにも変化が。初めて「孤独」を味わった。「課長に相談しても『気にするな』の一言。女性社員にはよくあることだと知らん顔なんです。私は何も変わってないし、前以上に仕事も頑張っている」。

## 先輩の態度一変

# 原因考える余裕持つて

るのに。どついたらいいの

か」

Dさんに対する先輩の態度を、涙を流し、時に腹を立てながら40分ほど話した。たまたま疑問やいらだち、たまっていた思いを全部はき出したら、違う見方もできるんじゃないかしら、そう思い私は聞き役に徹した。

「毎日つらいですね。会社にも行きたくなくなりますよね？ 食事や睡眠は取れていますか？」と尋ねた。Dさんの体が心配だった。

「毎日憂鬱ですが、食事も睡眠もちゃんと取れています」との答えにひとまず安心した。

Dさんが少し落ち着いたところで、「その先輩とは同じ仕事をしているんですか？」と聞いてみた。すると「ついこの前までは先輩のアシスタントのような仕事だったんですが、会社から前職でやっていたことを買われ、今は先輩がしない

こともやっています」とDさん。「私、何か悪かったんでしようか？」と不安そうな表情に。

私は「どうでしょうかねえ。Dさんは一生懸命頑張ってきた、そんなDさんに仕事が舞い込んで、さらに頑張っているだけですよね」と言った。「そうです。私はただ言われたことをやっているだけです」と口をとがらせた。少しの沈黙の後、Dさんが口を開いた。

「もしかしたら、先輩の嫌いなことを私がしているのが気に入らないのかも。最近仕事が楽しくて自分本位だったのかなあ」。Dさんに、先輩の気持ちを考えて余裕が少しずつ生まれてきた。

「先輩のプライドを傷つけるようなことをしていないか」と聞いてみた。一度思い返してみた。先輩にはまだまだ教えてほしいことがあるし…。Dさんの話を、私はただうなずきながら聞いていた。

相談室を後にするDさんを見送りながら今度会うときは明るい笑い声を聞けることを願った。

(福井新聞社提供)



イラスト・多田くにお